

3 都心周辺

大手門、赤坂、那の川、博多駅南、千代地区等

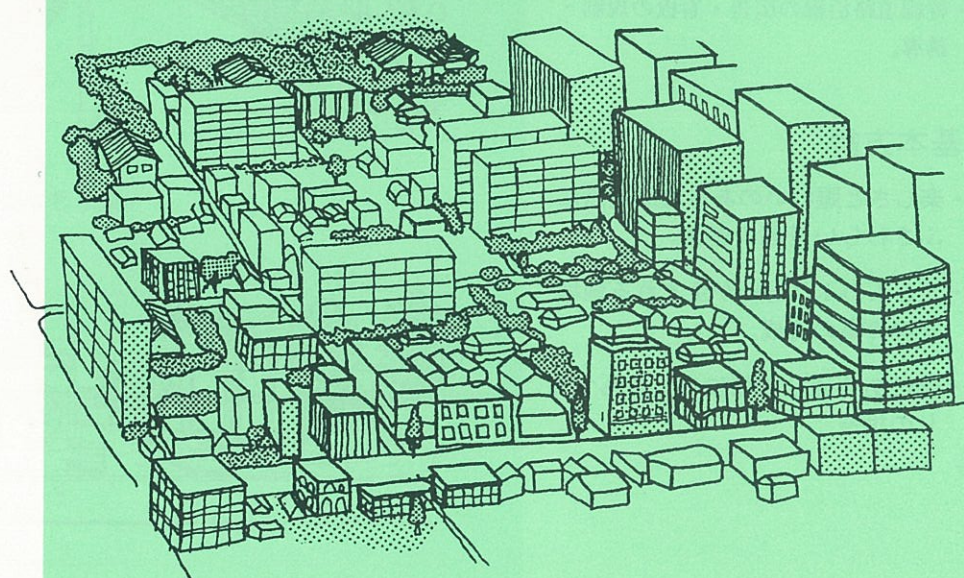


一般特性

[形成過程]

都心部の拡大に伴って、自然発生的に形成されてきた市街地であり、比較的古い街の形態をもっている。

その中で、博多駅の移転後、業務中心の新しい市街地として徐々に発展してきている地区もみられる。



景観特性

■ 自然系

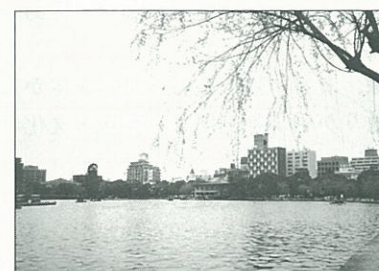
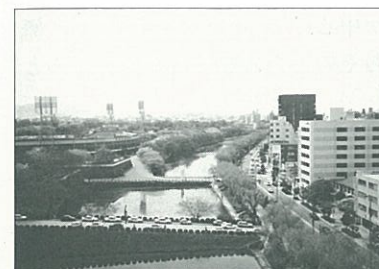
[緑]

福岡城跡、大濠公園、西公園と続く緑と水のオープンスペースは福岡の身近な自然を代表するゾーンである。

中心市街地周辺で唯一の緑あふれる丘陵地帯が西公園から南公園と続いており、その中に、自然の緑地と調和する良好な住宅環境が存在する。

[水]

大濠公園が水辺のオープンスペースとして、また福岡市のシンボルとして多くの人々のいこいの場となっている。



■ 歴史系

福岡城跡を整備した舞鶴公園が市民のレクリエーション、運動の場として多目的に活用されながら、城下町福岡を感じさせるシンボリックな空間となっている。また、舞鶴公園内から発見された鴻臚館跡は福岡の地が古くから海外との交流の拠点であったことを如実に物語っており、まさに福岡の歴史を象徴する場所である。西公園は、市内で最も古い都市公園であり、明治時代から物見遊山の場として、また福岡のまちの西の境界ランドマークとなっていた。

西公園には、黒田長政と如水を祭った光雲神社がある。国道202号線から西公園への道は光雲神社の参道も兼ねていて今でも燈籠や鳥居が当時の面影を残している。

■ 都市系

[まち並み]

都心部の周辺に位置し、都心との結びつきが強い地区であり、業務ビルを主体に一般、集合住宅、店舗等が混在し、様々な都市活動が行なわれている変化にとんだ市街地を形成している。ところによっては居住、飲食、娯楽地区など用途が特化された例もあるが、全体的に明確な地域特性を感じる箇所は少ない。

その中で、特徴ある景観を感じさせるのが幹線道路沿線であり、近代的な商業業務ビルの集積が進み、都心部から連続する都会的まち並みをつくりだし賑わいと親しみのある通りとなっている。



景観特性

[道路]

都心部と連動して整備された幹線道路が中心となって、地区内道路も概ね計画的に整備された地区が多く、まちそのものはわかりやすいものとなっている。

幹線道路には、緑あふれる十分な歩行者空間が整備されているが、地区内道路では、歩道の未整備など歩行者空間の不足もみられる。

[動向]

都心に近い利便性から、マンション・業務ビルの建設が多くみられる。これは最近の郊外から都心部及び都心周辺へのUターン現象となっており、あらわれている。

けやき通り、浄水通りなど、街路樹の緑、あるいは坂のある環境を生かして、特徴あるファッション性豊かな通りが生まれ、新しい情報・文化をもった地区として注目されている。

また、千代・吉塚地区は再開発等により今後大きく変貌しようとしている。

■ その他

都心から大濠公園等へ適切に誘導するサインが少なく、まちを知る情報が不足している。



課題と基本方針

■ 課題

- ・画一化したまち並みの個性づくり。
- ネットワークの整備や歩行者空間の確保などによる歩行ルートの改善。

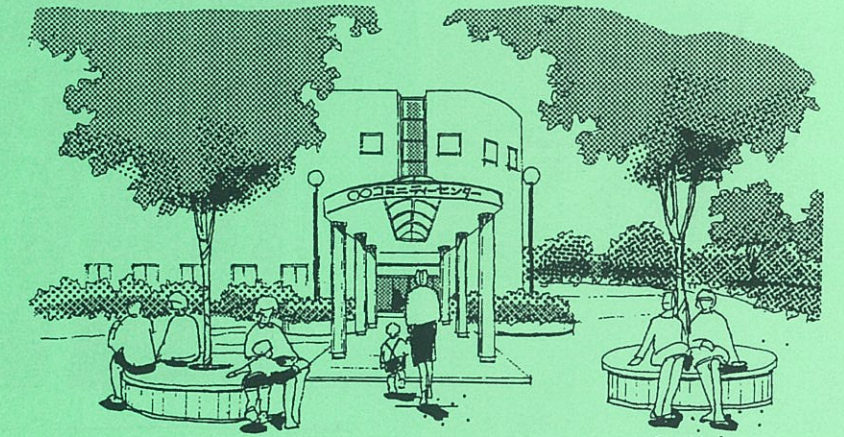
■ 基本方針

- ・地域毎の都市機能に合った個性的な景観の整備。
- ・歴史的資源や自然環境をアクセントに洗練された都市景観の演出。

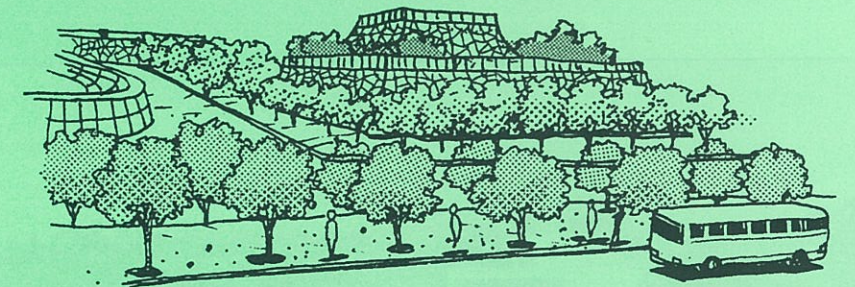
整備イメージ



緑を基調にしたファッション性豊かなまち並み



地域の連帯を強めるコミュニティー施設



歴史的資源と自然豊かなまちのオープンスペース

4 旧市街地

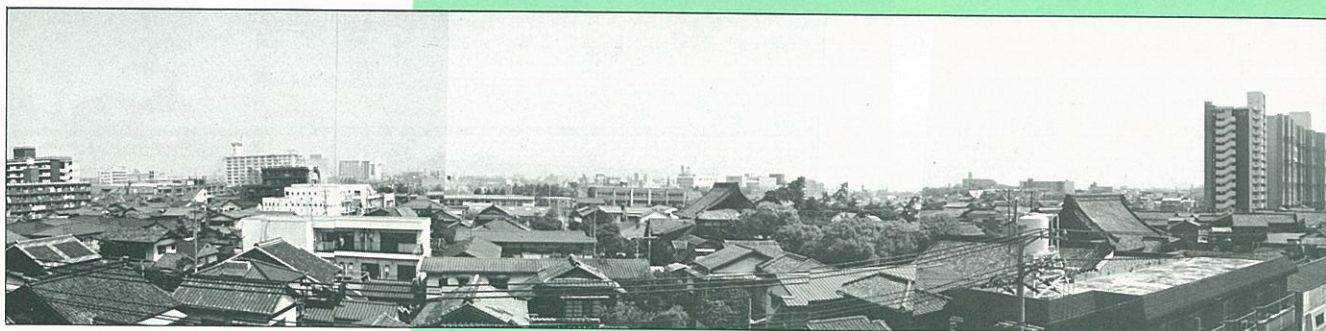
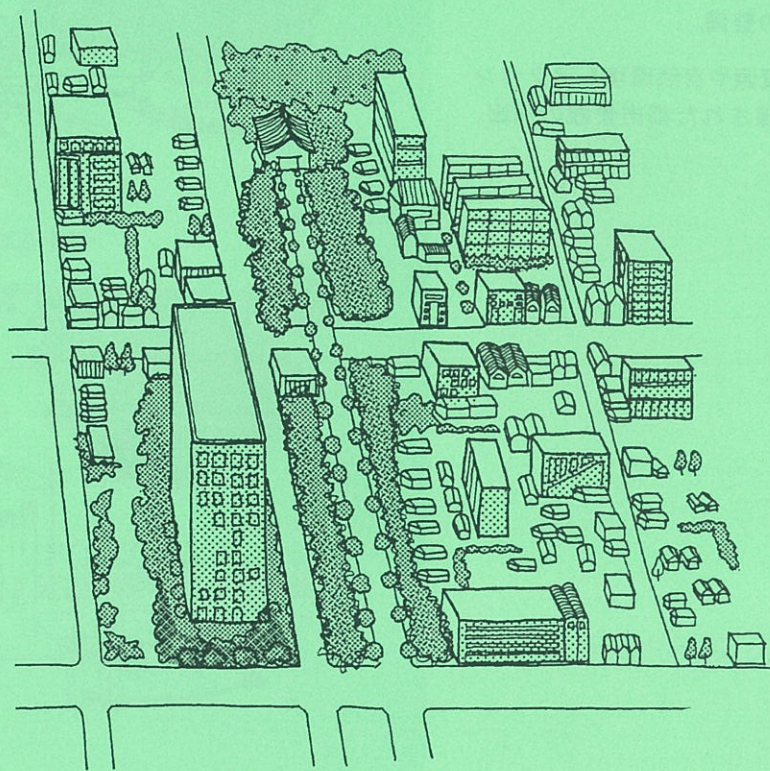
姪の浜、唐人町、箱崎地区等



一般特性

[形成過程]

それぞれ漁村（姪の浜）、外国人居住地（唐人町）、門前町（箱崎）とその起源は違っているが、各地区とも戦災をまぬがれそのまち割りや建物は、戦前の姿をとどめており、福岡で少なくなった下町的雰囲気を感じさせる地区である。



景観特性

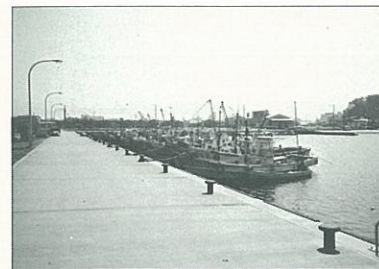
■自然系

[緑]

全体的に緑の少ない密集市街地であるが、歴史のある寺社の境内に数少ない貴重な自然の樹林を有している。

[水]

元来、海岸線に面していた地区であり、埋立てによって海岸線が徐々に遠ざかってきた結果、水辺が遠い存在になりわずかに漁港などに親水性をもった場が残っている。



■歴史系

伝説や歴史的物事にまつわる場所が言い伝えや記念碑となって残されている。

古代・中世の貿易や防衛の核となった伝統ある寺社が点在し、歴史的な雰囲気をもつ。



■都市系

[まち並み]

狭い道路沿いに戦前からの木造住宅が軒を連ねており、人間的スケールをもったまち並みである。地区内に多く存在する寺社によって、他の市域とは違った歴史的たたずまいをつくりだしている。

昔から地域コミュニティの中心的役割を演じてきた市場、商店街が、今でも多くの人々に親しまれ、新しい市街地では見られないあたたかみとふれあいを感じさせる生活空間となっている。



[道路]

地区内幹線が十分でなく、昔ながらの狭い道路が多く、歩行者用の道路空間が不足しているところもあり、まちをわかりにくくしている面もある。

[動向]

姪の浜、唐人町両地区とも全体的に居住年数の長い地元定住者が多いが、一部には大きな開発への動きもある。アパート、集合住宅への建て替えが部分的にみられる。箱崎地区は、一部集合住宅への土地利用変換が見られ、高層化による土地利用の増進が進められているが、既成の低層住宅群との調和を配慮した計画も求められている。



課題と基本方針

課題

- ・不足している公園、広場の確保。
- ・地域との結びつきの多い豊富な歴史的環境の活用。
- ・道路体系の整備。

基本方針

- ・歴史的環境、緑の増加による快適な居住環境の育成。
- ・地域個性、雰囲気を活かした新しいまちづくりの推進。

整備イメージ



伝統ある場所のまちづくりへの活用



まち中の憩いのスペース（緑道、ポケットパーク）



地域個性を活かした親しみのあるまちづくり

5 一般住宅地

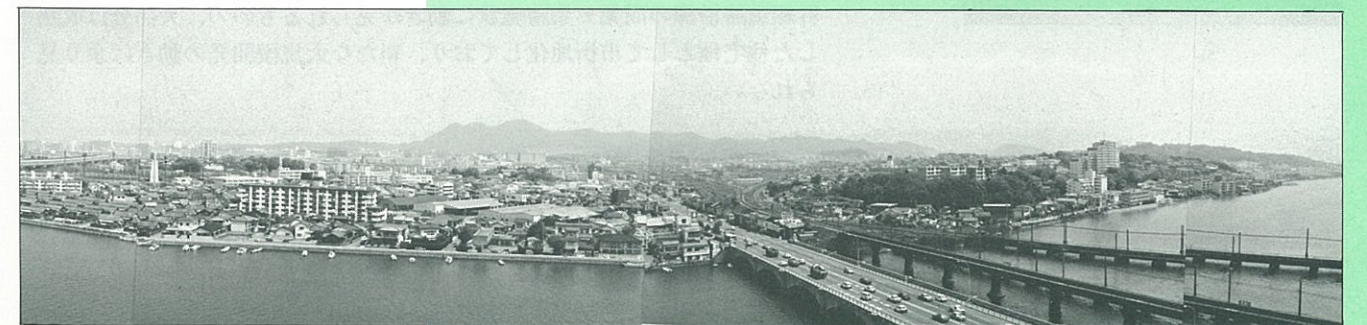
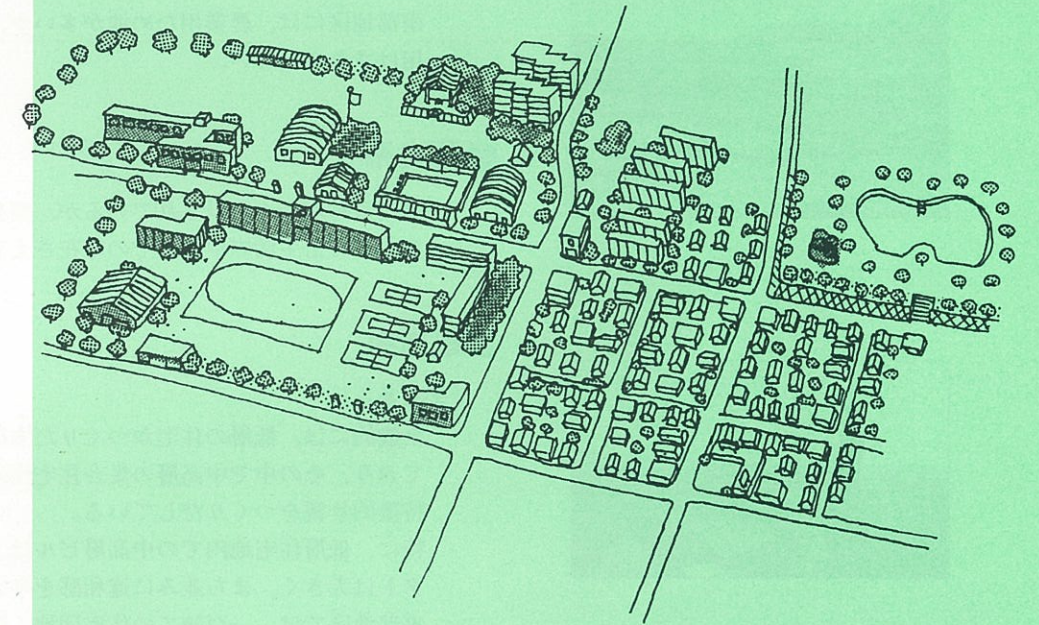
西南部、東部地区



一般特性

[形成過程]

昭和30年代後半から活発化した市街地（住宅地）の拡大によって形成された地区で、公共団体による大型集合団地や民間の宅地開発による住宅地が既存の集落と併存している地区。



景観特性

■自然系

[緑]

丘陵地や斜面緑地がまとまった緑となって生活環境にうるおいを与えている。

[水]

那珂川、多々良川、室見川等、比較的豊かな水量、流域をもつ河川空間が、水に親しめるうるおいを提供するレジャー、レクリエーションの場として地域住民に広く活用されている。

地行、百道、姪の浜 地区では、2.5kmに及ぶ日本でも有数の人工海浜の整備により、海辺の活用が図られている。

南部地区には、農業用ため池が多いが、危険防止の観点から積極的な活用はされていない。

■歴史系

古代遺跡が多く発見されているが、開発の波の中で保存されるものは少なく、日常生活の中ではその存在さえ忘れ去られようとしている。

■都市系

[まち並み]

一般的には、低層の住宅が作りだす居住空間が景観形成の主体となっており、その中で中高層の集合住宅団地、路線型の近隣商店街などが、特徴的景観をつくりだしている。

特に、低層住宅地内での中高層ビルは、周辺地区の景観に与えるインパクトは大きく、まち並みに違和感を与えている例もみられる。

東部地区では、一戸建ての住宅団地、西南部では、集合住宅団地が多いのが特徴となっている。

[道路]

ある程度のまとまりをもって計画的に開発された地区もみられる反面、道路網の一体的整備がなされないまま、宅地化が進んだ地区も多く、地区内道路の整備が望まれる。

[動向]

幹線道路沿線の商業・業務施設に動きが見られるものの、大部分は成熟した住宅地として市街地化しており、新たな大規模開発の動きは余り見られない。

■その他

一般住宅に混じって中高層の集合住宅が建ち、従来の居住環境に影響を与えている。幹線道路沿線には、広告・看板が多く都市の美観を損ねているものがある。

課題と基本方針

■課題

- ・画一的な住宅地の個性化。
- ・不足している歩行者空間の整備。
- ・自然環境との親しみの回復。
- ・幹線道路沿線の広告・看板の規制・誘導。

■基本方針

- ・人々が活発にふれあい、地区それぞれが個性をもった、生活空間づくり。
- ・身近な自然環境を活かしたゆとりとうるおいのあるまち並みの形成。

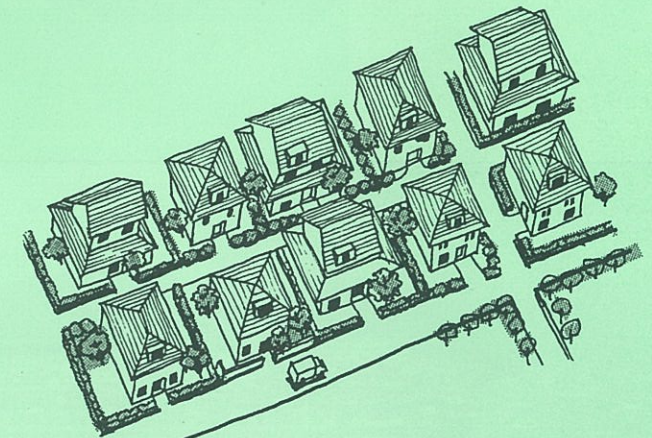
整備イメージ



住宅地内のゆとりをつくる緑道



計画的開発による個性あるまち並み



住宅地廻りの緑化された家並み